

地域担う人材育成に力

個性きらめく

光星学院創立60周年

①

「地域発展の礎は教育にある」

初代理事長の中村由太郎さん(故人)の思いは脈々と受け継がれ、学校法人光星学院は地域に根差した学校づくりに力を注ぎ、地域に貢献する人材を輩出してきた。

八戸学院大や八戸学院大短期大学部では、八戸地域をテーマにした研究、教育を展開。

まちづくりや農業、スポーツなどさまざまな分野での課題解決を図っている。

2018年4月には、ビジネス学部を「地域経営学部」に改組。水産や農業資源を生かしたビジネスプランの構築など新たなカリキュラムも導入する予定で、教育内容を充実させる。

さらに、近年は「地

国際感覚養成へ留学推進

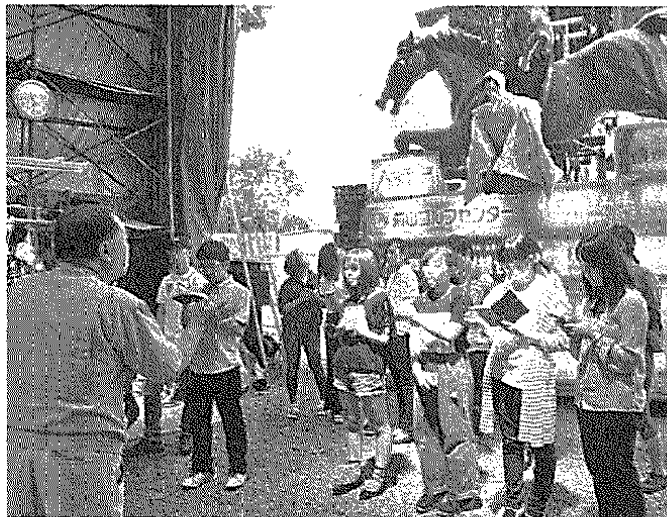
域を考える上ではグローバルな視点が必要」との考えの下、フィリピンの語学学校「CNEI」と協定を締結。

学生に海外での経験を積極的に積ませるため、来年度から短期留学を授業に組み込むことも検討している。

こうした動きについて、大谷真樹学長は「地域思考が強い学生が多いが、海外に数日行くだけで視野が大きく広がる」と意義を強調。国際的な感覚を持つて地域の課題解決に

域を考える上ではグローバルな視点が必要」との考えの下、フィリピンの語学学校「CNEI」と協定を締結。学生に海外での経験を積極的に積ませるため、来年度から短期留学を授業に組み込むことも検討している。こうした動きについて、大谷真樹学長は「地域思考が強い学生が多いが、海外に数日行くだけで視野が大きく広がる」と意義を強調。国際的な感覚を持つて地域の課題解決に

八戸三社大祭の山車小屋を見学する八戸学院大短期大学の学生。法人では地域に根差した教育を実践している



当たる人材を育てている。誕生から60年の時を経て、今では幼稚園か

ら大学までを抱える大規模な学校法人に成長した光星学院。

来年6月には、日本語や日本文化を学ぶカリキュラムを備えた中高一貫高をフィリピンに開学。

常に時代の流れに合わせた教育を実践してきた法人は、地域と海外という両面を見据え、さらなる発展に向けてまい進していく。

学校法人光星学院は12日、八戸市公会堂で記念式典を開き、関係者らが法人の新たな伝統の構築に向けて決意を新たにす。

(福田駿)